

---

# 殲血の守護神（ガーディアン）&閃光の殺し手《アサ

龍神

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

〈劇場版〉 魔法少女リリカルなのは

穢血ガーディアンの守護神&閃光の殺し

アサシン 流星の黒騎士時空を越えた超決戦

### 【Nコード】

N3266V

### 【作者名】

龍神

### 【あらすじ】

これは酸欠帝さんの魔法少女リリカルなのはガーディアン穢血の守護神アサシンと勇往邁進さんの魔法少女リリカルなのは 閃光の殺し手アサシンの劇場版クロス小説です。

気になる人は見ていってくださいね！ 酸欠帝さん、勇往邁進さん本当にありがとうございます！

### 3人の戦士

「はあ……はあ……」

黒い甲冑に身を包んだ青年は周囲に爆煙が立ち込める中を全力で走っていた

だが……

ドオンッ

黒い甲冑の青年に光弾のような球体が飛んでくるが、ソレをギリギリで避ける

そして煙幕を振り払い青年はもう一度走りだす。

「あぶねえ、あぶねえ……ッ！」

彼の名はゼロ・エルグランド。ベルカ時代において、聖王オリヴィエと共に戦い

側で仕えてきた守護騎士である。

ゼロ「フェンリル……ソードビット、トライヤルシールド！」

暗闇の中、一筋の光が見えた途端ゼロがそれに気付き

ソードビットをシールド形態にして赤い光線が飛んでくるが、ソレを防ぐ。

ビュウウウウン

シールドが徐々にヒビ割れていく！

ゼロ「ぐうッ！・・・魔力がッ！？」

ドオオオオオンッ

ゼロ「ぐうあああああッ！！」

巨大な光弾にシールドを砕かれて

そのままゼロは爆風で吹き飛ばされ、背後の壁にクレーターが出来上がる。

ゼロ「ぐっ・・・」

誰か、この声が聞こえているなら答えてくれ！

綜夜 side

綜夜「はっ・・・何だったんだ、今の夢は・・・」

自分の部屋で眠っていた綜夜だったが、さっきの夢で目が覚めてし

まった。

綜夜「少し風にでも当たるか……」

それから外出して、今は街が見渡せる丘の上の公園に来ている。

「綜夜、こんな所で何やってんだ？」

公園のベンチで風に当たっていた綜夜に声をかけてくる少年。  
それは櫻木大地、綜夜の親友である。

綜夜「大地か、お前こそ何やってんだよ？」

大地「今朝、変な夢見てさ。それで気分が優れないから外に出てきた」

綜夜「夢？、それって黒い甲冑着た男のか!？」

大地「お前も見たのか、あの夢は何だったんだろっな」

綜夜「分からねえ……んー」

大地「……」

綜夜「……」

それから、しばらく沈黙が続く。だが、綜夜が叫び沈黙は破られる！

綜夜「だぁー！ー！ー！ウダウダしたって仕方ねえ、大地！」

立ち上がり目の前の大地に詰め寄る。

大地「な、何だよ!？」

綜夜「今から俺と模擬戦してくれ！」

大地「ああ!・・・いいぜ、戦<sup>や</sup>ろう!」

案外回答は早く帰ってきたので、2人は向かい合い己の愛機を構える!

大地「エグゼキュート!」

自らの力を呼び起こす!

その手には白色に輝き黒い球体が鍰に納まった短剣を持っている。すると大地の容姿が見る見る変わる!

制服姿から白い長袖のアンダーウェア、黒い七分丈のコート、白いカーゴパンツに黒いショートブーツを履いた姿になり、黒いゆるい癖のある髪は白い蓬髪となる!

汝、閃光となりて敵を討て!

綜夜「行くぜ、ブラドエッジ!」

赤く染まる綜夜の目と髪。

長剣は赤熱し攻撃的な姿を、“ブラドエッジ”としての姿を、力を

現す。

そして守護神の戦衣が綜夜を包み、深紅の外套が綜夜に纏われる。

少年よ、災を狩る刃となれ      !!

## 歪み（前書き）

龍神「ようやく更新できた・・・けど、短編なので気をつけて下さ  
いね？」

では、始まります！

## 歪み

綜夜「はあああああああッ!!」

ギインッ

大地「でええええええええッ!!!!」

ズドオンッ

綜夜と大地の戦いは凄まじかった。空が、大地が、海が震える  
それほど二人の戦いは壮絶極まりなかった。

綜夜「よし、今日はこの位で終わりにしよう」

大地「ああ、分かった!」

二人は愛機デバイスを解除する。

ピイン

綜夜・大地「……ッ!？」

綜夜「この……光は……？」

そう、2人がデバイスを解除した時『閃光の短剣』と『懺血の牙』が輝きを放ち、その中心に歪みが出来上がる。

大地「なんだ?……この歪みは……」

綜夜「分からない。けど、この歪みの中から途方も無い魔力を感じる」

ゆっくりと歪みに手を伸ばす綜夜。すると、その時歪みの中から霧状のような物体が綜夜の腕を掴み、大地の身体を包んで行く!

綜夜「何だッ、これはッ!？」

大地「身動きが取れない!引きずり込まれる!!」

2人が言った時には遅く、すでに上半身は引きずり込まれていて残っているのは頭部だけになっていた。

綜夜「なッ……くそッ……ッ!」

大地「ちくしょう……ぐっ……」

最後の抵抗虚しく2人は歪みの中に消えていった。

2人が次にめざめたとき、そこは爆煙と炎に包まれていた

## 歪み（後書き）

龍神「酸欠帝さん勇往邁進さん、今回は綜夜と大地がメインでしたが、お楽しみ頂けましたでしょうか？そうであったなら幸いです！」

ゼロ「きつとそうさ、短編だけだな。そして今回は俺が出てないが、これはどういふ事が説明してもらおうか？」

龍神「次回からはちゃんと出します」

ゼロ「説明になってない。少しO H A N A S Iでもしうか」

龍神「い、いやだツ・・・来るなア!!」

ゼロ「遠慮するな。さあ、こっちに来い」

龍神「ひいついいいいいいいやあつあああああ!!」

それから誰も龍神の姿を見ることは無くなったという・・・

ゼロ「綜夜と大地もこっちきてO H A N A S Iしうか・・・

」

## 守護と閃光（前書き）

ついに、あの3人が遭遇するぜえ！！

なんかテンション上がってきたから、このままドンドン更新して  
くぜえ！イエー！！

それじゃあ、始めようかあ！

## 守護と閃光

大地「ここ……どこだ？」

綜夜「さあ……ッ！」

ドオンッ

大地「！……向こうで誰か襲われてる!？」

綜夜「……行ってみよう！」

大地が音のした方角へと走り出す。だが、綜夜はその場所で立ち止まる。

綜夜「……(ここは、俺たちの世界なのか?)」

ゼロ side

ゼロ「ハア・・・ハア・・・」

さっきの爆風で壁際まで追い詰められ、力なく片膝を地面に付けて肩で息をしている。

ゼロ「なんだろう・・・さっきから魔力が抑えられている気がする」  
訳の分からない状況といったゼロに考える暇を与えず、襲い掛かってくる暗闇からの攻撃の雨。  
それを必死に防御・回避し続けるが、それも限界が来て動けずにいる。

ゼロ「休ませてもくれないか・・・」

再びゼロに降り注ぐ光の雨。一瞬”死”を覚悟したが・・・

そこに彼等はやってきた

綜夜「そのこのアンタ、大丈夫か？」

『ガーディアン 穢血の守護神』と

大地「後は俺たちに任せな！」

その守護神に従者のように付きゼロの前に立つ『閃光の殺し手』<sup>アサシン</sup>が  
ッ！

ゼロ「お前たちは・・・誰だ？」

綜夜「この空間はAMFが満たされているな。通りで魔力が抑えられてるわけだ」

ゼロ「AMF・・・？」

何を言っているのか分からず首を傾げる。

大地「その説明は後だ。今はコイツらを何とかするぜ？」

綜夜「ああ、そうだな！」

2人は自分の愛機を再び起動させる。それと同時に暗闇の中へと突っ込んでいく！

ゼロ「気をつけるッ！ そいつらはゴーレムといって何度攻撃をしても完全に消滅しない限り再生するぞ！！」

ゴーレムという敵に向かって突っ込んでいく2人を見守るゼロがア  
ドバイスを吹き掛けるが、どうやらその必要はなかったらしい

なぜなら

大地「エグゼキュート！ドライブ！！」

エグゼキュートから、そして大地の身体から、魔力が奔流のように放たれる！！

その奔流はすべてのゴーレム達に絡みつくように放たれ、ゴーレム達は金縛りにあつたかのように動きが止まる。

そこを見逃さず、綜夜は前に出る！！

綜夜「ブラドエッジ……ドライブ！」

ブラドエッジかの刀身に凄まじい魔力のオーラが纏われ、巨大な刃となったそれがゴーレム達を跡形もなく消し飛ばして行く。

綜夜の一振りですべてを超えるゴーレム達が消えてゆく。

遠方のゼロも、その異常な光景を目の当たりにし、驚愕する。

ゼロ「な……！！？」

綜夜「だったら、完全に消滅させれば問題ないよな？」

大地「悪いけど、俺達こつこつという多勢力には慣れてんだ！」

正直に言わせてもらつと……この2人は強すぎる！！

ゼロ「お前達は……一体何者なんだ？」

綜夜「俺は紅月 綜夜。『穢血の守護神』だ」  
ガーディアン

大地「俺は櫻木 大地。『閃光の殺し手』アサシン ってたんだ」

## 守護と閃光（後書き）

龍神「ついに3人の出会いきたあああああ！！」

ゼロ「さっそく2人の実力見せられたな・・・」

龍神「大丈夫、次回は君の実力をフル出すつもりだから！」

ということ、次回もお楽しみに！

## 天空に浮かぶ塔

ゼロは見知らぬ2人に助けられ、それどころか通り名？ のような名を名乗られたが自分には、どう反応して良いか分からず少し綜夜と大地に警戒心を向ける。

無理もないだろう…

アレほどの実力差を見せ付けられたのだから、警戒心を向けるのも無理はない。

ゼロ「お前たちは…「あんた、夢で見た“黒い甲冑を着た男”だな…え？」

大地「ああ、本当だ！」

綜夜がゼロの言葉を遮って、今朝見た夢の事を話す。すると大地は、ハツとして叫ぶ。

ゼロ「夢……じゃあ、お前たちは夢の中で俺の声が聞こえたんだな！？」

綜夜「た、確かに声は聞こえたけど…」

大地「俺たちは“コレ”が光だして、気が付いたら此処に来てたんだ」

そう言つて綜夜と大地は、ゼロに待機状態の殲血の牙と閃光の短剣を見せる。

ゼロ「なるほど…で、この二つは何だ？」

綜夜「こいつは殲血の牙と言って、さっきみたいな力を使えるんだ」

大地「で、俺のは閃光の短剣と言って綜夜に劣らずの力を発揮できる」

さっきみたいな力が……

ゼロ「なら、綜夜と大地。俺と一緒にこの塔に登ってくれないか？」

大地「これ、塔なのか!？」

大地がそう質問してくるので、ゼロは上に登る為の階段がある所を指差す。

ゼロ「お前達が来る前に調べておいたんだ」

綜夜「けど、それじゃあ……」

ゼロ「はあ……外出て見てみるといい……」

ほぼ呆れたように出入り口である空洞を指差す。それから外へ出て見ると2人は驚愕した。

ゼロ「ああ……言い忘れてたが、この塔浮いてるから」

綜夜・大地「飛んでるうっうっうっうっうっうっ!?!?」「」

続いて上を見てみる。

綜夜・大地「高あああああああいいッ!!」

そう、浮いてるのもあるが100はくだらないだろう。ほとんど上が見えない……

綜夜「俺、この塔に登るの嫌になってきた……」

大地「俺も……」

ゼロ「俺だって嫌さ！ けど、行かなきゃならない！」

綜夜・大地「何で？」

ゼロ「俺は眠っていた……氷の中だな。けど起きたら此処に居たんだ。つまり、この塔と俺は何か関係があるのかもしれないと言うことだ」

綜夜「俺たちもこの塔に導かれた。もしかすると、帰り方だって分かるかもな！」

ゼロ「てことは、協力してくれるんだな？」

綜夜「おう！」

大地「困ってる人がいたら助ける！ 俺たちの力なら幾らでも貸すぜ！」

綜夜と大地はゼロに笑いかける。同じくゼロも2人に笑みを見せる。

ゼロ「ありがとう、綜夜、大地！これからよろしくな！」

3人は共に協力することを誓い、一つの決意を固める！

ゼロ「行こう。綜夜、大地！」

綜夜「ああ・・・！」

大地「おう！いつでも行けるぜ！」

## 天空に浮かぶ塔（後書き）

龍神「今回はほぼ適当に書きちゃった」

ゼロ・綜夜・大地「」「何やってんだ！」「」

龍神「だって僕は会話してるシーンより、戦闘シーンの方が好きなんだあい！」

ゼロ「映画見てる時、会話シーンは跳ばして戦闘シーンだけで楽しむタイプだろ」

龍神「よく分かりましたね。偉いですよ」

ゼロ「はぁ・・・俺はこのバカとつちめとくから、2人はシメよろしく」

綜夜「了解〜！」

大地「ということで、次回も・・・」

龍神「次回もお楽しみに！ ぎゃあああああああー！」「ドオンッ

ゼロ・綜夜・大地「」「勝手にシメを取るなあー！」「」

## マテリアルズ（前書き）

龍神「タイトルでもう分かる人はいるかも」

ゼロ「なんか、ギリギリアウトのような…」

龍神「僕は……この3人を出したかった！」

では、始まります

## マテリアルズ

### 塔 49階

ゼロ「ぜえ……ぜえ……」

綜夜「はあ……はあ……」

大地「さ、さすがにもう疲れた……」

3人はあれから塔に登ったは良いが、当然待ち受けていたのはゴーレムの群れで、一段階上がったて行く連れ大群で襲い掛かって来る。

綜夜「しかもAMFが満ちてるから飛んでは行けないし……」

ゼロ「おまけにゴーレムの群れで、こっちは傷付き魔力も減っていきばかりだし……」

大地「その内、俺達は全滅なんて事も……」

突然、大地が縁起でもない事を言い出すのでゼロと綜夜の顔が青褪める。

ゼロ「そ、そんな事より！ そろそろ50階だ。 気を引き締めるよ2人共ッ！」

綜夜「おう！……って、誰もいない？」

三人は50階に辿り着いた。だが、そこには誰も居ず人の気配すら無かった。

ただ、その中央には一冊の本が置かれていた。

ゼロ「何だろう、この本は……」

気になってその本へと近付いて行く。

色が黒で統一されていて、真ん中に銀色の十字架が飾られている。

ゼロ「……ッ!？」

その本に触れようとした時、本が勝手に開いて独りでページが捲られていく

そして一時停止した後、本の隙間から黒い光を帯びた三枚のページがヒラリ……と地面に落ちる。

ゼロ「!……2人とも伏せろッ!!」

ドオオオオオンッ

何かに気づいたゼロが2人の前に立ち障壁を張る。

すると、それと同時に黒い光が爆発して中から人の姿を見せる!

その三人はそれぞれなのは、フェイト、はやてに似た姿をしている。だが、デザインがソレとは異なっている。

「ここは……何処です? 貴方達は誰?」

黒い服に赤のラインが掛った、なのはに似た少女がゼロに問いかけて来る。

ゼロ「人に名を聞く時は、まず自分から名乗るのが礼儀だろ？」

シ「失礼しました。私は『星光の殲滅者（シュテル ザ デストラクター）』です」

そう言つて、少女は自らのデバイス『ルシフェリオン』を構える！

ゼロ「俺の名はゼロだ。シュテル…そこをどいてくれないか？俺達は行かなきゃならない！」

シ「そうは行きません。心が滾るのです…眼前の敵を砕いて喰らえと胸の奥から声がします」

シ「安らかな闇と破壊の混沌を呼び覚ませと訴えている」

ゼロ「そうか……なら、俺はそれをさせる訳にはいかないな！」

そう言つて、ゼロも自らのデバイス『フェンリル』を構える！それと同時に綜夜と大地もデバイスを構える。だが、それをゼロは制止させる。

ゼロ「綜夜、大地、悪いけどアイツは俺にやらせてくれ！」

綜夜「！……分かった。ゼロ、残り2人は――」

大地「俺達が引き受けたぜ！」

ゼロ「ありがとう、2人とも！ さあ、勝負だ星光の殲滅者（シユテルザ デストラクター）！！！」

シ「どちらが上か決めましょう…黒騎士さん」

こうして星光と流星の戦いの火蓋が切って落とされた！

さっきの黒い銀十字の書が消えている事にも気付かずに……

## マテリアルズ（後書き）

龍神「マテリアルズを出したは良いけど、資料足りないなあ……」

ゼロ「どうするんだ……？」

龍神「どうしよう……」

誰か、資料をオラに分けてくれえ！  
そして僕に文才力をッ！！

流星VS星光(前書き)

うつつ、休みたい・・・

## 流星VS星光

ゼロ「ここは……一体？」

さっきとは違う、まるで空間が歪んでいる世界。

シュ「ここは私が造った精神世界。ここなら魔力阻害の心配はありません……」

さあ、闇と混沌渦巻くこの世界で…血肉に踊る闘いを楽しみましょ  
う！」

ゼロ「俺は……負けるわけにはいかない!!」

狼牙一閃!!

ビュウウウウウン

フェンリルに魔力を収束させて斬撃波を放つ!

シュ「ッ!……ブラストファイヤー!!」

ドオオオオオンッ

それと同時にシュテルも赤い砲撃を放つ!

二つの砲撃と斬撃波がぶつかり合い暴発して爆煙が巻き起こる。

ゼロ「今だ……フェンリル!」

フェ『ソニッククレイブ』

ビュウンッ

ゼロは高速移動ソニックレイプでシュテルの背後に回り込み左手に翠色の魔力を集  
中させていく！

シュ「甘い……パイロシューター！」

ゼロ「くっ……リブレイトオ……」

シュ「……シュートツ！！」

ゼロ「バスターアーー！！！！」

ドオオオオオオオオ

お互い翠の砲撃と赤い弾丸状の射撃を撃つ！

だが、ぶつかり合う事はなく、すれ違い術者本人がダメージを負う。

だが……

シュ「こちらのガードが早かったようですね……」

砲撃に撃ち落とされる前に障壁を張り、防御していた。

ゼロ「こっちは……間に合わなかったか……ぐふっ！」

ゼロは一步間に合わず射撃をモロに喰らい吐血する！

ゼロ「はぁ……はぁ……ッ！」

シュ「今頃気付きましたか…保険を掛けておきましたよ」

気付いた時には既に遅く、ゼロの両手足はバインドにより拘束されていた！

ゼロ「身体がッ……動かないッ！」

シュ「今度は私の番です。絶望をお見せしましょう」

シュテルは黒いデバイス『ルシフェリオン』をブラスターモードへと変形させる！そして魔力を徐々に収束させていく！

シュ「集え、明星！ルシフェリオンブレイカー！！！」

ドオオオオオオオオッ

赤い巨大な砲撃がゼロを襲う！

シュ「はぁ…はぁ…この砲撃を喰らって人の形を保てるか……」

ゼロ「ところが、まだ人の形だ……」

煙が晴れ、ゼロが姿を現す！そして目の前には

『ソードビットが円環型になってシールドを張っている。』

シユテルはソレを見て驚愕の顔を隠せないでいる。

シユ「なっ……何ですか、ソレはッ!」

ゼロ「トリアルシールド。ソードビットはシールド替わりにもなるだぜ!」

シユ「くっ……そうですか……」

ゼロ「今度はこっちの番だッ! フルドライブ!」

フェ「ユニオンフォーム」

ゼロの呼応と共に瞳が紅く輝きフェンリルの形状が変化して両刃剣から大剣へと姿を変える!

これこそがゼロの本当の力「ブラッドモード」である。

シユ「それが……貴方の本当の力ですか……」

ゼロ「もう……終わりにしよう。フェンリル」

フェ「スターダスト・ブレイバー」

ビュウウウウウウウウ……

周囲に散らばったシユテルの使用した魔力とゼロの魔力を集積させて巨大な魔力球が出来上がる。

ゼロ「お前の闇を、俺の光で浄化してやる!」

シユ「私にはもう避ける力など残ってはいません……来なさい」

ゼロ「スターダストオ……ブレイバー!!!」

フエンリルを前に突き出し一気に突っ込む！すると爆発寸前まで膨れ上がっていた魔力球はゼロを包み込み、そのままシュテルへと突撃する！

シュ「綺麗……まるで、空に降る流星のようだ……」  
ドオオオオオオオオオ

シュテルは翠の光に包まれていく。気が付くとゼロに抱かれていた所謂、お姫様抱っこという形式で！

シュ「敗れましたか……。強いですね、貴方は」

ゼロ「いや……お前だって強かった」

シュ「ああ……私は、消えるのですね……」

ゼロ「ああ……すまない」

シュ「なに、強い戦士と戦って敗れたのです。生まれた甲斐はありましたとも」

ゼロ「ああ……ありがとう」

シュ「もし、次に見<sup>ま</sup>える事があれば、今度はきつと決して碎け得ぬ力をこの手にして、貴方と戦いたいと思います」

ゼロ「いいぜ……いつでも来い！」

シュ「次に私と戦うまで、貴方の道が勝利に彩られますように……」

シュテルは静かにゼロの頬に手を添える。

その時、シュテルの奥底の悲しみが伝わってきたのは言うまでもなかった。

ゼロ「シュテル……」

シュ「それでは……さらばです」

シュテルはゼロに最後に別れ告げ、花弁が舞い散るように消えていった。

それと同時にシュテルの精神世界も崩壊した。

ゼロ「……勝利」、か……綜夜と大地はどうなったんだろう？」

ゼロは仲間である綜夜と大地の身を案じ、2人の元へ駆けつける！

## 流星VS星光（後書き）

龍神「次回は『守護神VS雷刃』です！ 酸欠さんとこの綜夜が大活躍です！」

酸欠さん、次回は楽しんでいってください！  
それでは！

## 守護神VS雷刃(前書き)

最近、更新速度が落ちてるような……

酸欠帝さん、今回は綜夜がメインです！  
楽しんでいってください！

では、始めます

## 守護神VS雷刃

一方、綜夜の方では既に戦いは始まっていた。

「はぁあつー!!」

綜夜「うお、あぶねえ!!」

ショットガンのように青い魔力弾が向かってくる。だが、それを紙一重で回避してあら互いに動きを停止させる。

綜夜「そろそろ名前ぐらい教えてくれても良いんじゃないか?」

「いいだろう。 僕の名は雷刃レヴィ・ザ・スラッシャーの襲撃者」

レヴィ「君は……一体何者だ? 君から異様な魔力を感じる」

綜夜「俺は紅月 綜夜だ。 異様な魔力つてのは戦ってみれば、分かるんじゃないか?」

綜夜の言葉に一層、警戒心を強めるレヴィ。

レヴィ「何故だろう。 君の存在は、著しく不快だ。 君を見ていると、苛立ちが募る!!」

綜夜「それは”今の俺の状況”だからじゃないかな?」

レヴィ「上手くは言えないが、今の自分が、本当の自分でない感覚がある」

レヴィ「そして、僕の魂はこう叫ぶ！」

レヴィ「君を殺して我が糧とすれば、この不快感も消えるはず、と  
！」

そしてレヴィは自分のデバイス『バルニフィカス』を構える！

綜夜「ごめんな。今は殺されるわけにはいかないんだ」

それと同時に綜夜もデバイス『ブラドエッジ』を構える！

レヴィ「そうはいかない。僕は帰るんだ…

あの暖かな闇の中に……！

血と災いが渦巻く、永遠の夜に」

レヴィ「さあ！ 我が剣の前に

君は死ぬ！ 僕は飛ぶッ！」

綜夜「ああ……なんか安心したかな。

本当のフェイトちゃんに絶対にそんな事言わないから……

安心して、別人と思って戦えるッ！！」

レヴィ「この世界は僕が造った精神世界」

そう、今2人が居る場所は暗雲と降り頻る雨。そして下は広大な海が広がっていた。

レヴィ「もはや、君に勝ち目は無い！」

綜夜「それでも、やってやるさ！ 行くぜえ！！！」

外套を翻し綜夜が叫び、レヴィへと突撃していく！

綜夜「まずは軽く食前酒！！！」  
アバント

ブラドエッジを地面に叩き付ける！

その衝撃でレヴィはバランスを崩し、倒れる！

レヴィ「……………ッ!？」

綜夜「続いて前菜！」  
オードブル

倒れたレヴィに向かって、綜夜が蹴りを叩きこんだ！

その蹴りをモロ喰らって吹き飛んで行く！

綜夜「お前はこの汁物で締めだ！」  
ポタージュ

レヴィ「調子にッ……………乗るな！！！」

ブラドエッジでの斬撃を飛ばす！ だが、レヴィは素早い動きでソレを回避して反撃を開始する！

レヴィ「天破・雷神槌！！！」

バチチチチチチツ

綜夜「ぐううう!?!」

上下左右から雷撃を喰らい海に落ちていく綜夜。

そしてレヴィはバルニフィカスを『ザンバーフォーム』に変形させる!

レヴィ「これで最後にしよう。行くぞ! 我が太刀に一片の悔いは無――しッ!」

綜夜「いいぜ。フルドライブ!」

綜夜の呼応と共に周囲の海が震える! すると、ブラドエッジの刀身が凄まじいオーラを纏う!

綜夜「守護の剣・一刀」  
ビュウウウウウウウウウ

レヴィ「落ちろッ! 雷神滅殺極光斬!!!」

綜夜「フォトンエッジ!」

雷神の一撃と守護神の一刀が振り下ろされるッ! だが、レヴィが気付くより速く、綜夜はすでに背後にいた。そして痛みが走る。

どうやら、レヴィが一撃を喰らったようだ。

レヴィ「うおお! 馬鹿なッ! 馬鹿なアーツ!」

綜夜「おやすみ……」

そしてレヴィはシュテルと同じく散っていった。  
それと同時に精神世界も崩壊する。

ゼロ「…終わったようだな」

綜夜「待っててくれたのか？」

ゼロ「お前の戦いの邪魔をする訳にはいかないからな」

綜夜「ハハッ……よし、次は大地だな。 行こう！」

ゼロ「ああ！」

こうして守護神の戦いは終わり、2人は大地の元へと向かう！

## 守護神VS雷刃（後書き）

龍神「守護神VS雷刃の戦い終わったあ！」

ゼロ「しかし、良いのか？勝手に綜夜の技作ってるけど」

龍神「はっ……酸欠帝さん、すいません！良かったら……使って……  
……ください……ね？」

ゼロ「ビビリが……さて、次回は『閃光VS闇統べる王』大地の戦い  
も、見逃せないぜ！」

勇往邁進さん、次回は楽しんでいってください！  
それでは！

## 閃光VS闇統べる王（前書き）

勇往邁進さん、今回は大地がメインです。  
楽しんでいってください！

では、始まります。

## 閃光VS闇統べる王

一方、大地はと言うと……

大地「暗くて何も見えない……」

今、大地の居る場所は暗闇の中、まさに闇そのものに囚われているようだった。

「塵芥、うぬはこの闇の中、何を見出せる？ 絶望しろ、希望を捨てろ、未来を捨てろ、生を捨てろ、光を抱くな、闇を抱け……さあ、我が闇にその身を委ねろ……」

耳元で囁かれる闇の声。だが、その程度の誘惑に動じる大地ではなかった！

大地「誰がッ……身を委ねるかよ……！」  
ビュンッ

暗闇で何も見えない大地だが、声のした方をがむしやらにエグゼキユートを振り回す！だが、全て空振りに終わった。

「ほう……塵芥、少しはヤル様だな？ 気に入った、名を名乗る事を許す！」

大地「偉そうに……俺は櫻木 大地だ。 そつちこそ名乗れよ！」  
どこに居るかも分からない者に指差す大地。

「フンツ……塵芥程度に聞かせる名前など無いが、特別に聞かせてやろう！」

ディア「我は閻統べる王。ロード・ディアーチエ 我こそが王よ！」

ディアーチエはフンツ、と言い 無い胸を張る。 大地には見えてないが…

ディア「塵芥、どうだ…我と手を組まんか？」

大地「……何故だ？」

ディア「シュテルとレヴィは殺られた…残るは我1人。 奴らはシュテルとレヴィを倒す程の強者…だが、うぬと我が手を組めば奴ら程度簡単に潰し“真の王”復活への贄とできよう！」

大地「真の王……だと？」

ディアーチエの言葉に動揺する大地。

ディア「そう……この最上階に我らが真の王は来るべき復活の為に今は眠っている。 だが、うぬら程の魔力を糧とすれば、真の王は蘇り、我らは“決して砕け得ぬ閻”となろう！」

高笑いが響き渡る。 だが、大地は…

大地「俺は…仲間はずらさないし、その真の王つてのも復活を止めて見せるッ！」

大地の決意は強固なものだった！ 仲間との“絆”があるからこそ、闇の誘惑に打ち勝てたのだろう。

ディア「ほう…ならば、反方向かというのだな？」

大地「当たり前だッ！」

そう言つてエグゼキュートを構える！

ディア「ならば！ うぬを殺し、真の王復活の糧としてくれよう！」

ディア「エルシニアダガー！！！」

ディア「チエは叫ぶ、すると同時に無数の剣が大地の身体を切り裂いていく！」

大地「ぐっ……………（どうする、この暗さじゃ敵が何処にいるかわからねえ！）」

ディア「フフフッ……………じっくりと甚振つてから殺してやるッ！」

考えてる暇も与えず止まない攻撃の雨。 大地の身体は既にボロボロだった。

大地「考えてる暇ないな……………使つか、アレをッ！！！」

そう言い大地は魔力を集中させ、こっぴど叫ぶ！

大地「フルドライブ!!!」

強大な魔力が大地を包み込む！　そして…

大地「来たれ、古代の殺し手よ!」  
いにしえ

大地は歴代の殺し手の力を借り、『閃光の魂』ソウル・オブ・ゲランスを発動させる!

大地「俺に力を貸してくれ…歴代の殺し手たちよ!」

ディア「このツ…塵芥がア!　大人しく死ねばよいものをツ!!!  
ア  
ロンドایت!!!」

大地「ヤミヲツモノ絶影杖」

白い砲撃が大地向かって放たれる!　だが、大地もディアアーチエと同じく白い砲撃で相殺させる!すると、エグゼキュートが黒紫色の杖に変わっていた。

ディア「我と同じ魔法で相殺だと!?　あり得ん!」

大地「何とか勘で撃つたら当たった…先ずはこの暗闇をどかせるッ  
!」

大地の呼応で光に包まれる。　そして闇を振り払う技を発動させる!

大地「大地の輝光!!!」  
テラ・フォーミング

ディア「ぐう……ッ!？」

放たれた光はディアーチエの精神世界を崩壊させ、2人は向き合う。

大地「ようやく姿を現したな!これで終わりだあ!！」

瞬間、闇の魔力がエグゼキュートへと集まる!  
そして闇の砲撃魔法を撃ち放つ!

大地「デスッ……」

大地「バァー……ストツ!!!」

ドオオオオオオオオ

ディア「ぐあああああああッ!!!」

闇の砲撃がディアーチエを包む。そして、撃ち落とされたディアーチエは大地に抱かれて腕の中で気絶していた。

大地「手加減はしておいた……後で色々と話し聞かせてもらっぜ?」

こうして櫻木 大地こと閃光の殺し手の戦いは幕を閉じた。  
その後、ゼロと綜夜と合流したのは言うまでもなかった。



## 閃光VS闇統べる王（後書き）

龍神「ようやく3人の戦いがクライマックスまで近づいてきたなあ」

あ、勇往邁進さん、大地が出した『テラ・フォーミング』は歴代の殺し手の力を借りずに発動させたから

まったく気にしないでください！　そして良かったら使ってやってくださいね？

では、次回もお楽しみに！

夜の終わり、仲間の意味（前書き）

龍神「今回は長文です！飽きずに見てくれると、嬉しいな？」（可愛子ぶりながら）

ゼロ「キモいんだよッ！！」

では、始めますう！

## 夜の終わり、仲間の意味

ディア「……………うん」

ディアーチエは目を覚ました。  
気がつくと、三人のおと……

ディア「変態！！」

ゼロ「武器をしまえ。あと、俺達は変態じゃない」

ディアーチエの暴言を冷静に突っ込むゼロ。

すると……

綜夜「まあ、ゼロの顔を見たら誰だって、そう思うよw」

ゼロ「な……………んだと…?」

ゼロ退場。 だが……

ディア「いや、うぬが一番変態の顔してるぞ」

綜夜「な……………んだと…?」

綜夜退場。

大地「ふざけてる場合か。 さあ、色々聞かせてもらおうぞ?」

ディア「黙れ、<sup>けさう</sup>変態」

大地「変態と事書いて“げろう”……だと……？ありえねえ……」

大地退場。

ディア「はあ……うぬら、少しどいている」

ゼロ・綜夜・大地「……へ？」

ディア「アーチエは杖である『エルシニアクロイツ』を取り出し、魔力を収束させる。」

ゼロ「何をやるんだ？」

ディア「壁を……ブチ抜くツ！！ エクスカリバーツ！！」

ドオオオオオオオオオオオ

瞬間、三角形の魔法陣から白い3連射型の砲撃が撃ち放たれる！  
まず、3つの砲撃が地面を撃ち抜き、その射線を強大な砲撃が通り抜ける。

ゼロ「いったい、どこに向けて撃つたんだ？」

ディア「この塔の最深部にあるAMF設置機能だ」

ドオオツ

何かが発発する音が鳴り響く。 どうやらAMFの破壊に成功したようだ。

すると……

綜夜「魔力が……」

大地「…戻った！ これなら全開で戦えるぜツ！」

ディア「では、我は逝く。と、その前に…ゼロとか言ったな、話がある耳を貸せ」

ゼロ「…何だ？」

2人は綜夜と大地から少し離れた所で話をする。

ゼロ「で、いったい何なんだ？ 俺に話して…」

ディア「うむ。我らが言う”真の王”とは…うぬの”父親”の事だ」

ゼロ「なツ…親父おやじツ！？」

ディア「そう…かつて、300年前のベルカ戦争において”最強と謳われた英雄”…それが、うぬの父”ゼノ・エルグランド”」

ゼロ「そんな…出鱈目だ！親父おやじは300年前に死んでるはずだツ！」

突然の言葉に戸惑うゼロ。だが、ディアーチェはさらに言葉を紡ぐ。

ディア「…眠っている時にゼノから言伝ことづてを預かってきた。『塔の最上階まで来い。そこで全てを話してやる』との事だ」

ゼロ「……………そうか」

ディア「では、我はもう逝く……………」

ゼロ「なあ、何でさっきはあそこまでやってくれたんだ？」

さつきとは、AMF破壊の事だろう。

だが…………

ディア「ただの気まぐれだ」

ゼロ「気まぐれって…………でも、ありがとな！」

ゼロは笑顔を見せながらディアーチェの頭を撫でる。少し顔が赤くなっているが気にしないでおこう。

ディア「フ、フンツ…………ではなツ！塵芥ノノノノノ」

ゼロ「塵芥じゃない、俺はゼロだ！」

ディア「そ、そうか…………ではな、ゼロ。それから其処の塵芥イ！  
！」

バシィンツ！

大地「いてッ！……な、なにしゃがんだ！！」

怒鳴り上げるディアーチエが紫色をした魔導書を大地に投げつけ、  
こう叫ぶ！

ディア「いいか！負けた借りは次に会う時必ず返す！それまで負ける事は絶対に許さんッ！！」

大地「……ああ、分かったよ！ディアーチエ」

ディア「フッ……さらばだ」

大地の言葉を最後にディアーチエは微笑み、そして消えていった…

ゼロ「ありがとうディアーチエ……これで俺達は全力で闘えるッ！」

綜夜「よし！その親玉んとこまで行こう！」

ゼロ「いや、ここから俺一人で行く。2人は悪いが此処に居てくれ」

大地「……は？」

綜夜「どういう事だ？ゼロ……」

ゼロ「この塔の最上階に居るのは、俺の親父だ。もう、ここから俺達“親子“の問題だ…さすがにお前達をここまで巻き込む訳にはいかない！だから……ッ！？」ガッ

いきなり綜夜に胸倉を掴まれ、焦るゼロに頭突きを喰らわせる！

ゼロ「くっ……何をッ」

綜夜「ゼロ！俺達は何だ?!」

ゼロ「え?……ぐふお?!」

綜夜の言葉に戸惑うゼロに、続いて大地が顔面にグーパンチを喰らわせる！ 2人の攻撃を受けたゼロは、その場に倒れる。

ゼロ「ぐっ……お前ら……」

大地「ゼロ！俺達は“仲間”だが！だったら最後まで俺達に頼れよ!?!」

ゼロ「大地……綜夜……」

綜夜「お前は俺達に力を貸してほしいと言った。なら、最後まで力を貸すよ！それが“仲間”だろ?」

綜夜と大地は、倒れている騎士を起こす為に手を差し伸べる！それはゼロにとって最高の言葉だった。

ゼロ「ありがとう、そしてもう一度2人の力を貸してくれ!」

3人は手を強く握り合う!

それは固い“絆”の糸で結ばれたものだった。

綜夜「行こうぜ、ゼロ!」

大地「力を合わせよう、ゼロ！」

ゼロ「ああ！行こう、綜夜、大地！」

3人は最上階を目指して飛翔する！

ベルカで最強と謳われた“英雄”を倒すために――

## 夜の終わり、仲間の意味（後書き）

龍神「そろそろ終わりが近づいて来たなあ……」

ゼロ「ああ……今まで読んで頂いてる皆様、どうか最後まで飽きずに見ていって下さい！」

龍神「超駄文ですが、最後まで見てってくださいね！」

次回『最後の戦い』

最後まで、よろしく願います！

## 最後の戦い

99階 扉前

ゼロ「ここが……最後の扉…準備は良いか、二人とも？」

ゼロは2人と向き合う。綜夜と大地はコクン と頷いてから扉の前に立ち、開口する！

中は上の階へと進む階段が続いている。だが、その最上階からゼロは懐かしいけど、深く暗い邪悪な魔力を感じ、額から冷汗が流れ出る。

綜夜「……ゼロ…大丈夫か？」

ゼロの隣側にいた綜夜に肩をポンと押され、少し驚くが…

ゼロ「綜夜……いや、大丈夫だ。行こう」

気を取り直して階段を進んで行く。かつての父を、自分が尊敬し憧れていた…そんな親父をおれは――

ゼロ「着いた。……開けるぞ！」

最上階に辿り着いた！

ゼロが扉を開けると、そこには…

「待っていたぞ。我が息子よ」

ゼロ「親父…いや、ゼノ・エルグランド…!」

3人の目の前に玉座と思われる椅子に座り、まさに“英雄”に相応しい筋肉隆々とした体型に髪はゼロと同じく黒色のロングで、こちらを見つめる鋭く青い瞳。ゼロと違うところは、身体の各所にできた生々しい傷跡とヒゲが生えているくらいである。

ゼノ「ゼロ…何だ、その2人は？ 呼んだ覚えはないぞ」

ゼロ「綜夜と大地は俺の仲間だ！あんに動向言われる筋合いはないッ…!」

ゼノ「我が息子よ…お前を呼んだのは他でもない。  
ワシの目的の為に貴様も協力してもらおうぞ」

ゼロ「目的…何が目的なんだ！」

怪しい笑みを浮かべ、ゼノはこう紡ぐ。

ゼノ「ワシの目的…それはベルカ再興！そして砕け得ぬ闇となることッ…!」

砕け得ぬ闇…ディアーチェが言っていた復活の事か。

だが…

ゼロ「ベルカの再興…？ どういう事だ！ベルカは…聖王が…」

ベルカは聖王が“ゆりかご”から救ってくれた筈だ！  
なのに、親父は何を言ってるんだ？

ゼノ「知らないのか？ベルカは聖王と共に滅んだのだあ！！」

ゼロ「ッ！？……そんな…ベルカが…聖王が…」

ゼノ「愚かな王だ！無謀だと分かっているながら、自ら死地に向かい、あまつさえベルカを救えず死んでしまふとはなあ！

民など捨てて、何処か違う世界に逃げ仰せばよかったものをッ！！」

ゼロ「違うッ！聖王は、民を…ベルカを守るために身を呈して救ってくれた！

俺でさえも……」

オリヴィエは、聖王は命を代償にゼロを救った…

そのオリヴィエを侮辱する事がゼロ（かれ）の怒りを揺さ振った！

ゼノ「…だが、死んだ。結局それに変わりはない！」

ゼロ「黙れえッッッ！！！」

ゼロは叫ぶ！そしてゼノ向かって翠の斬撃が放たれる！

だが、ゼノは玉座から立ち上がり側に刺さっていた大刀で、刀身と鏢の間に丸い穴が2つ彫られた大刀を抜き取る！

ゼノ「その斬撃を教えたのは誰だと思っている？ 破断撃！！！」

大刀を振り抜く！　すると、ゼロの斬撃を超える巨大な黒い斬撃が交じり合う！！

ゼノ「どうだあ！？闇の書の力で増幅された魔力に貴様は抗えるかあ！！？」

ゼロ「…………ぐツ！？」

ゼロの斬撃が掻き消され、黒い斬撃がゼロを襲う！

だが…

綜夜「俺たちをツ…………」

大地「忘れてもらっちゃ困るツ！！」

綜夜と大地が渾身の一撃で、黒い斬撃を食い止める！  
凄まじい爆発が巻き起こり、土煙が上がった！！

綜夜・大地「行けえ、ゼロオ！！！！」

ゼロ「はあああああああッ！！！！」

ゼノ「我が大刀『バオウ』参るツ！　ふうんツ！！」

ギインツ

ゼロの大剣『フェンリル』とゼノの大刀『バオウ』の刃が交じり合う！

ゼロ「親父！決着<sup>ケリ</sup>をつけてやるッ！！」

ゼノ「これが、わしと貴様らの”最後の戦い”となるっ！さあ、かかってこい小僧どもおー！」

ここに、『英雄』という闇に立ち向かう『流星』と『穢血』と『閃光』の戦いの火蓋が切って落とされた！

## 最後の戦い（後書き）

龍神「遂にやってきました！ゼロのお父さん！」

ゼロ「絶対に勝ってみせるッ！綜夜、大地  
俺たちの”絆”の力を見せてやるっぜ！！」

次回『絆の力』

「これが…俺たち”絆”の力だ！！」

## 絆の力（前書き）

ふう・・・疲れた・・・

これが3人のラストバトルです。  
どうか楽しんでいてくださいね！



大地「大地の輝光テラ・フォーミングで眼くらましとはな。結構、これ魔力使うんだぜ？」

ゼロ「だが、これで反撃の布石は砕かれた！合体技で行くぞ、綜夜！大地！」

綜夜・大地「了解！」

三人は、それぞれの愛機に魔力を集中させて渾身の一撃を繰り出す！！

ゼロ「喰らえ、狼牙一閃！！」

綜夜「守護の剣、一刀！フォトンエッジ！！」

大地「決めてやる！殺し手の乱舞アサシン・ダンス！！」

ドオオオオオオッ

ゼノ「ぐあああああッ！！」

凄まじい斬撃乱舞で、さすがの英雄も耐えきれず片膝を地面に接触する。

ゼノ「さすがだ、小僧ども！……だが、まだ足りん！！こんなものでワシを超えれると思うなァ！！！！」

闇の力が増幅していく！凄まじい気迫に三人は怖じ気づいた。

だが、それでも3人は…

ゼロ「…俺はオリヴィアを侮辱したアンタを絶対に許さねえ！！」

綜夜「本当の英雄が何なのか教えてやるぜ！！」

大地「俺達は…絶対にあきらめない！！」

ゴオオ

ゼノ「な、何だ！その魔力はあ！？」

ゼロ・綜夜・大地の身体を輝く魔力が包み込む。  
まるで、三人に新たな力を与えるように

ゼロ「フェンリル…ボーゲンフォルム！」

フェ『ボーゲンフォルム』

ゼロは相棒<sup>フェンリル</sup>の名を呼ぶ！

すると、大剣の形状から今度は大型の弓へと変形する。

ゼロ「綜夜、大地、俺に力を貸してくれ！」

綜夜「よし、『穢血の牙』！！」

大地「『閃光の短剣』！」

フエンリルに『殲血の牙』と『閃光の短剣』が設置される。  
それぞれ、紅・黒・白・翠の魔力を矢の形状に精製させる！

ゼノ「ならば、我が最大最強魔法を見せてやるうッ！！」  
ゴオオ

さっきのさらに倍の力が増幅されていく！

綜夜「やらせるかッ！！」

ゼノの目の前に綜夜が立ち塞がる！

だが…

ゼノ「邪魔だあ！！昇甲掌打ッ！！！！」

ドゴオンッ

綜夜「ぐはあッ！！」

ゼノ「まだ終わらん！降崩掌打ア！！！！」

ズウンッ

綜夜「ぐああああああッ！！」

ゼノは拳だけで綜夜を上空に飛ばし天井に激突させる。

激しい痛みが綜夜を襲うがそんな事も構わず首根っこを掴んで地面

へと叩きつける！

大地「綜夜「次は貴様だ……！」……ッ!?」

ゼノ「死ね、獄突!」

ドオンッ

大地「ぐうッ!?」

一瞬の隙を突かれた大地の背後にゼノが回り込む!

そして気が付く頃にはすでに遅く、気迫を込めた衝撃波を受けてそのまま地面に倒れる。

ゼノ「さあ、これで終わりだッ!」

ゼロ「ああ、終わりだ!」

ゼノ「何ッ!?…そ、それは……!」

そう、綜夜と大地が時間稼ぎしてくれたおかげで闇を断つ矢が出来上がった!

ゼロ「受けてみる、親父ッ……!!」

ゼロ「これが……俺たち”絆”の力だ!」

ゼロ・綜夜・大地「ソルジャーフォース・ブレイカー!」

「」

ビュンッ

ドゴゴゴオオオオオオ

ゼノ「ぬうおおおおおおッ！！！」

紅・黒・白・翠の4つの矢が放たれる！

その矢は一つになって巨大な砲撃となってゼノを包みこんでいく！！

ゼノ「ワシは…まだ諦めんぞおおおおお！！！」

ゼロ「さようなら……親父……」

ゼノは砲撃と共に壁を貫いて塔の最上階から外に出て、深海へと落ちていった。

絆の力（後書き）

龍神「永かった……ようやく終わる」

ゼロ「次回で綜夜と大地とも別れか……2人には本当に感謝してる」

龍神「うん。……酸欠帝さんと勇往邁進さんにも感謝だね！」

ゼロ「ああ！……そうだな！」

次回『さらば友よ』

閑話 ゼノ・エルグランド(前書き)

今頃ですが、ゼロの親父のプロフィールを載せたいと思います。

閑話 ゼノ・エルグランド

ゼノ・エルグランド

身長 195センチ

体重 70キロ

年齢 不明（見た目が50歳ほど）

魔導師ランク オーバーS

出身 古代ベルカ

魔法術式 古代ベルカ式、剣術で近接戦闘型。

デバイス バオウ 無人格型アームデバイス

形状 大刀 ゼロの『ユニオンフォーム』に似た形で

見た目からすれば、古そうだが切れ味・破壊力のどれ

をとつても

この大刀に勝る物は無いとされている。

性別 男

騎士甲冑などは無く、上半身裸で様々な戦場で付いた傷跡が見えている。

300年前に彼に何があったのかは未だ不明。劇場版でゼロとの再会を果たし、『砕け得ぬ闇』の復活と『ベルカ再興』という目的を告げているが、ゼロ・綜夜・大地に阻止され、彼も深海へと沈んでいた。

その後、彼の生死は不明とされている。

さらば友よ（前書き）

ついに最終話です。

今まで見てくれた人も、初めて見る人も  
最後まで楽しんでいって下さい！

さらば友よ

ゼロ「やった……！俺は、英雄おやじを越えたッ……！」

ゴゴゴゴ

綜夜「……何だ！？」

大地「塔が……崩れていく！」

主を失い役目を終えた、天空に浮かぶ塔は崩れていく。そして先ほどゼロが堕ちた深海に瓦礫やゴーレム達が次々と堕ちていった。

綜夜「ゼロ、俺たちも早く脱出しよう！」

ゼロ「……！(ブラッドモードの使い過ぎで身体が動かない！)」

ゼロが力を使い過ぎて倒れる。

無理もないだろう。『ブラッドモード』は魔力を限界まで惹き出す代わりに

使い過ぎれば、身体が動かなくなる。

大地「おい、大丈夫か？」

倒れているゼロに大地が駆け寄り手を伸ばす。

ゼロ「大丈夫だ。すまない……」

大地「ほら、肩貸してやるよ」

大地に運んでもらい、綜夜が塔の壁を撃ち抜いて3人はそこから脱出した。

しばらくして塔は完全に崩壊し、深海に散っていった。  
それを遠くの空から見ていたゼロはこう紡ぐ。

ゼロ「親父……」

綜夜「終わったな……ん!？」

大地「なんだ?……身体がツ!？」

そう、突然に綜夜と大地の身体は輝きを放ち  
今にも消えようとしていた。

ゼロ「どうやら、お前たちも役目を終えて、元の世界に戻るみ  
いだな。」

俺も……また永い眠りに……」

ゼロは俯き、そう呟く。

そしてこう紡ぐ。

ゼロ「綜夜、大地。俺は2人に会えてよかった！  
お前たちがいなくなったら、今ごろ俺は……」

綜夜「俺も、お前に会えてよかったと思ってる！」

大地「けど、なんでだろうな。俺たちは……また何処かで会えそうな  
気がする」

ゼロ「ああ、俺もだ！ だから、2人には”この光”を持っていて  
ほしい」

綜夜・大地「……これは？」

ゼロは綜夜と大地に翠に輝く光の球体を手渡す。  
そしてこう紡ぐ。

ゼロ「この光は、俺たち3人が揃うとき輝きを放ち  
きつと記憶も取り戻せるはずだ……」

綜夜「……どういうことだ？」

大地「俺たちは……記憶を失うのか？」

ゼロ「ああ…失う。そうじゃないと並行世界に歪みが出来てしまうからな」

俯きながら語る。だが、次の瞬間ゼロは真剣な顔になる、綜夜と大地も同じく真剣な表情で話を聞く。

ゼロ「俺は…2人の事は忘れたくない。だからこの光を受け取ってほしい……！」

この光さえあれば、並行世界が歪むことはないし、綜夜と大地が危険になった時は必ず俺が助けに行く！

そしてこの輝きを見たら思い出してくれ！俺のことを……！」

ゼロは真剣だった、綜夜がいなかったら今頃死んでいた。

大地がいなかったら俺は戦うことを諦めていただろう。

ゼロにとって綜夜と大地は”友”であり、命を賭してでも守りたい”仲間”だ。

だが2人は違う世界の者、一緒に行動もできない。それが分かっている”僅かな光”にゼロは賭けみたかったのだろう。

綜夜「ゼロ……きつと俺たちはまた会えるさ！」

大地「ああ、そうさ！どんなに離れていても光で繋がってる限り俺たちの”絆”を断ち切ることはできねえよ！」

ゼロは綜夜と大地が差し伸べた手をぐつと握り締めて3人が固い”絆”で？がれていることを確認する！

すると、綜夜と大地は光に包まれて消え去っていった。

ゼロ「俺も……時間か……」

瞬間、ゼロの身体も光に包まれる。

そして彼は、どこか遠い空へと駆けていった。

ありがとう、綜夜！

ありがとう、大地！

いつか、また会えることを楽しみにしてるよ！

その頃、ゼノが堕ちた深海では

ドクン

ドクン

ドクン

深海奥深くでは、心音だけが鳴り響いていた

さらば友よ（後書き）

龍神「ようやく終わったーーーーー!!」

ゼロ「なんか、続編がありそうな展開だが……?」

龍神「フッフ……それは、活動報告に書くかもね!」

ゼロ「酸欠帝さんと勇往邁進さんには感謝だな!」

龍神「もう何度感謝してもしたりないよ!本当に……ありがとう。

r z」(泣

という事で、今まで今まで見てくれた人も、初めて見る人も最後まで楽しんでもらえたら幸いです!

また、どこかで会いましょう!バイバイ(笑

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3266v/>

---

～ 劇場版 ～ 魔法少女リリカルなのは

2011年9月4日20時38分発行